

神奈川, 2016. 11. 03-04

当院における均衡型染色体異常症例を対象とした着床前診断の現状

中野達也¹、松本由香¹、庵前美智子¹、佐藤学¹、中岡義晴¹、森本義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック ²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

当院では十分なインフォームドコンセントを行った上で日本産科婦人科学会の承認を受け、均衡型染色体構造異常の患者を対象に着床前診断を実施している。今回はこれまでに実施した 12 症例 23 周期のうち、出産に至った 4 症例を報告する。

【症例 1】

妻 35 歳 46, XX、夫 32 歳 46, XY, t(4;5) (q21;q35)。1 回目で 3 個の胚盤胞を検査し、2 個の正常胚が得られ 2 度移植するも妊娠に至らず(ともに ICM Grade:C)。2 回目で 1 個の胚盤胞を、3 回目で 1 個の胚盤胞を検査するも異常であった。4 回目で 4 個の分割期胚を検査し、1 個の正常胚が得られたが妊娠には至らず。5 回目で 4 個の分割期胚を検査し、3 個の正常胚が得られた。うち 1 個を移植し、妊娠・出産に至った。

【症例 2】

妻 32 歳 46, XX、夫 30 歳 46, XY, t(6;14) (p21.3;q32.3)。1 回目で 6 個の胚盤胞を検査するも異常であった。2 回目で 5 個の胚盤胞を検査し、2 個の正常胚が得られた。うち 1 個を移植し、妊娠・出産に至った。

【症例 3】

妻 37 歳 46, XX, t(10;18) (p10;p10)、夫 36 歳 46, XY。1 回目で 5 個の胚盤胞を検査するも異常であった。2 回目で 9 個の胚盤胞を検査し、2 個の正常胚が得られた。うち 1 個を移植し、妊娠・出産に至った。

【症例 4】

妻 32 歳 46, XX、夫 35 歳 46, XY, t(5;14) (p13.3;p24.1)。1 回目で 2 個の胚盤胞を検査し、1 個の正常胚が得られた。正常胚 1 個を移植し、妊娠・出産に至った。

【まとめ】

当院で行った 23 周期における採卵時の母体平均年齢は 36.0 歳であった。また、分割期胚もしくは胚盤胞で生検した胚 79 個(/分割期胚 ; 38.5%)のうち染色正常胚は 16 個(20.3%)であった。さらに、染色体正常胚 6 個を移植し、4 個が着床(66.7%)しすべて出産に至った。以上から、染色体正常胚の割合は患者や周期ごとに異なるが、採卵周期が 2 回目までに少

なくとも正常胚が 1 個は得られた。今後は凍結保存中の胚についても移植していく予定である。